

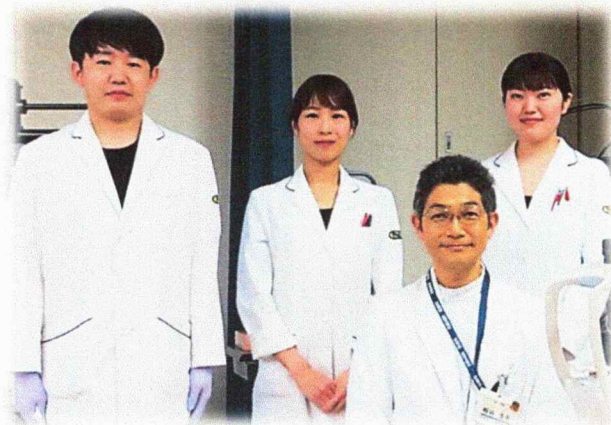
西脇病院 眼科 の紹介

眼科 部長 いたや 板谷 ひろし 浩志

当科の外来体制は、眼科専門医1名、視能訓練士3名、看護師は外来部門より2名前後、そして医師のオーダー入力を代行する医師事務作業補助者1名で日々奮闘しています。

これまでどおり一般的な眼科疾患を全般に取り扱っています。

特に硝子体手術については、西脇病院赴任前が網膜専門として長くやってきた関係で、ほぼ全てに対応しますが、裂孔原性網膜剥離については、現在当院では受けていない状況のままで変わりありません。



黄斑円孔や増殖膜が旺盛な増殖糖尿病網膜症は扱います。抗VEGF薬の硝子体注射も積極的に行っていますが、PDT治療は行っていませんので、複数の注射でも反応せず、PDT治療の適応が考えられる場合は対応できる他院を紹介しています。

白内障手術での眼内レンズについては、単焦点、トーリック、分節型二焦点を採用しています。多焦点レンズは扱っていません。

当院での白内障手術での特筆すべき取組は、アトピー性白内障については、手術中に眼底最周辺部を圧迫検査して鋸状縁付近の裂孔の有無を確認し、必要があれば同時に冷凍凝固治療まで行っていることです。

緑内障については、インプラントなどが必要な重症例の手術はできませんが、中程度までの手術には対応しています。

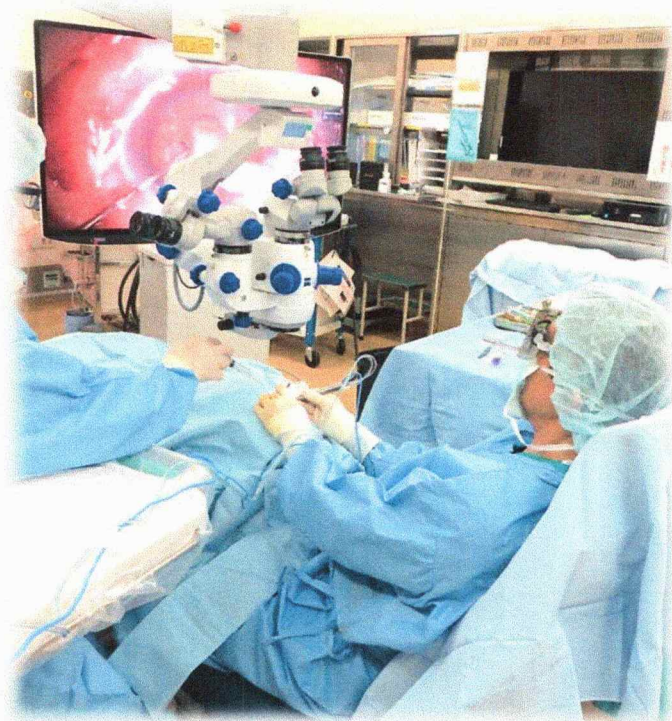


最新型 3Dモニター使用 手術顕微鏡

昨年のできごとになりますが、手術顕微鏡が、ついに更新され、最新型の3Dモニターを使用する手術に変わりました！！

大画面を見ての手術になりますので、鏡筒からのぞく顕微鏡内の視野とは比べものにならず見やすい上に、顕微鏡の照明を相当に落としても画像処理で明るく表示できるため患者負担が軽減されています。

今後も病院ならではの形で地域に貢献できればと考えていますので、よろしくお願いいたします。



～ 眼科より地域の先生方へ ～

最優先で考えていることは、最先端医療の継続です！！

多少、不便をおかけすることもあります。微力ながらも長くこの地の医療の支えの一端となることを目指していますので、なにとぞ御協力よろしくお願いいたします。

一人体制ですので、当日受付の場合、診察待ちが非常に長くなります。御紹介いただきます際には、たいへんお手数ですが、できるだけ患者総合支援センターをとおして予約を確保していただきますと患者さんの不便が減りますので、御協力よろしくお願いいたします。

✿ 診察スケジュール等（令和8年3月現在） ✿

	月	火	水	木	金
午前	板谷浩志 ※	板谷浩志	手術	板谷浩志	板谷浩志
午後	手術	予約診	手術	予約診	予約診



※月曜日は、午前だけの診察で、予約と紹介患者のみです。

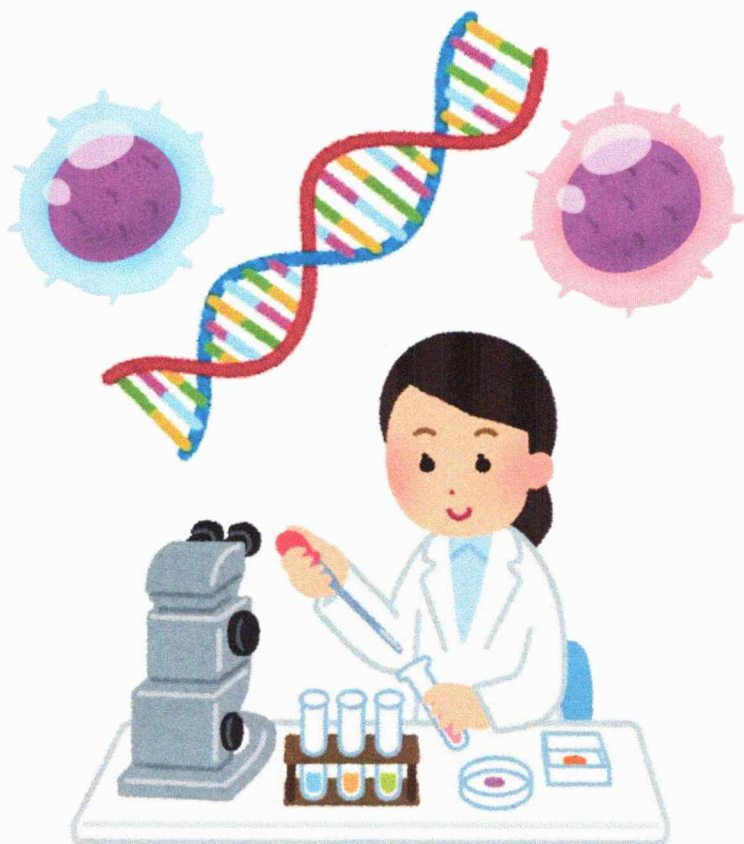
★緊急の疾患には随時対応します★

西脇病院 血液内科 の紹介

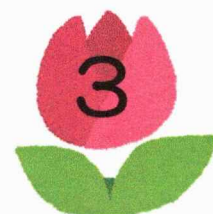
血液内科 部長 かしわぎ 柏木 たかお 貴雄

西脇病院では平成20年から非常勤の血液内科専門医（皆川先生）による血液内科外来が始まり、平成25年より常勤専門医（松井先生）の赴任に伴い血液内科が開設されました。その後非常勤の血液専門医として川野先生、若橋先生、その後鈴木先生が赴任されています。令和8年現在は、火曜日：松井先生（非常勤）、水曜日：鈴木先生（非常勤）、木曜日：柏木（常勤）の週3診体制にて血液内科の診療を行っています。

当院では次ページのように多岐にわたる血液疾患の診療を行っており、開業医の先生方や近隣の医療機関の先生方から日々ご紹介いただき、迅速に診察させていただくことで早期診断、早期治療開始を心がけています。昨今、遺伝子検査技術の発展とエビデンスの蓄積により、これらの血液疾患の診断や治療方針の決定、予後判断にも遺伝子検査が欠かせないものとなってきています。一方で骨髄検査、フローサイトメトリー検査、リンパ節生検などの検査を院内で迅速に行うことで、ご紹介いただいた同日に診断を行い迅速に治療介入できる体制を整えています。また自家末梢血幹細胞移植も院内で施行できる体制を整えており、多発性骨髄腫や悪性リンパ腫に対する移植治療にも対応可能です。



フローサイトメトリー（FCM）検査



西脇病院にて令和7年1月から令和8年1月までの期間で 新規に診断し加療を行った疾患

急性骨髄性白血病
急性リンパ性白血病
慢性骨髄性白血病
慢性骨髄性白血病の急性転化
慢性リンパ性白血病
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
濾胞性リンパ腫
成人T細胞性リンパ腫
節性辺縁帯リンパ腫
マントル細胞リンパ腫
原発性マクログロブリン血症
多発性骨髄腫
ALアミロイドーシス
POEMS症候群
再生不良性貧血
骨髄異形成症候群
続発性赤芽球癆（パルボウイルス）
メトトレキサートによる薬剤性汎血球減少症
亜鉛欠乏性貧血
銅欠乏性貧血
ビタミンB12欠乏性貧血（巨赤芽球性貧血）
無症候性ループスアンチコアグラント陽性
自己免疫性溶血性貧血
免疫性血小板減少性紫斑病
二次性好酸球増加症
本態性血小板血症
真性赤血球増加症
二次性骨髄線維症

～ 血液内科より地域の先生方へ ～

原因不明の貧血やリンパ節腫脹、不明熱の診断にお困りのときは、遠慮なくご相談ください。

外注ラボから芽球の出現（白血病疑い）を指摘されたとき、重症貧血（ヘモグロビン6g/dl未満）、著しい出血傾向や血小板減少症（2万以下）がある患者さんは、救急対応（緊急入院）が必要ですので、いつでもご連絡ください。

